

## 張 光夫教授記念号によせて

社会学部長 牧 正 英

張 光夫先生は1957年4月関西学院大学経済学部にて嘱託助手として就任され、1998年3月に関西学院大学社会学部を御退職になりますまでの間38年間の永きに渡って関西学院大学の教育と研究そして関西学院の発展にお尽くしになりました。しかしながら張 光夫先生は1946年関西学院大学予科に御入学後、1948年関西学院大学経済学部、1951年関西学院大学経済学部研究科修士課程、1955年科大学経済学部研究科博士課程（単位取得）のそれぞれを御卒業、終了されました。これらの年月をみますと張 光夫先生は正に生粋の関西学院生と云っても過言ではないでしょう。

張 光夫先生は1960年、当時、開設しました関西学院大学社会学部に専任講師として迎えられ、1965年には関西学院大学社会学部助教授、1975年に関西学院大学社会学部教授とされました。つまり、張光夫先生は学部創設以来の社会学部を支えてこられた、今では数少ないお一人であります。御退職後は関西学院大学名誉教授として関西学院や社会学部の発展にお心をかけていただくこととなります。

張 光夫先生の御専門はイギリスの社会主義思想史であります。この専攻については関西学院大学経済学部名誉教授であった故堀 経夫教授の門下生であったこととその影響によるものであると推察致しております。

張 光夫先生の研究業績は業績書にみられますように、ジョージハルムの自由と計画の経済学、イギリスの社会主義思想史に関する共訳書が故堀 経夫教授の監修とそして故堀 経夫教授、大前 朔郎教授との監修であります。

張 光夫先生は社会学部では第1類理論社会学（文化社会学、社会思想）の教授として、大衆文化研究の問題領域と対応概念やJ. Sミルにおける功利主義人間性の修正や進歩の意義について、そしてレイモンド・ウィリアムズの文化論等幅広くその理論や論点を展開されました。これらはイギリスにおけるカルチュラルスタディズの紹介の先駆けをなしたものと見えるものであります。

その後、体調を崩されました時期もありましたが、最近では健康も元に戻られ、学生の教育に情熱を注がれておられます。そして、いつも維持された自己のペースとユーモアを交えての会話や教授会での発言はその議論の中の一服の清涼剤でもありました。

張 光夫先生は大学の教育研究を財政的側面で支えています重要な国庫助成に関する私